



エコスタディ 「昔のくらしから学ぼう」

■ プログラムのねらい

昔と現在の道具やくらしぶりの違いから、労働力やエネルギーの使い方の変化について気づく。

「もったいない」、「道具の見直し」など、安全でよりよいくらしを工夫する力を育てる。

■ 対象学年：小学校4年生

■ 関連教科：4年生 社会「きょう土につたわるねがい」

■ プログラムの概要：ふろしきの体験をとおして、くらしを考えるプログラムです。



社会に関連させたプログラムの活用例と発展例

社会学習

昔の道具を探してみよう
＜2時間＞

【学習活動】

- ・昔の人々の工夫や願いがこめられている道具や行事に気づく。

昔のくらしを体験しよう
＜3時間＞

【学習活動】

- ・昔のくらしの様子と道具について調べる。
- ・古い道具を使い、使い方や工夫を調べる。

昔発見カードを作ろう
＜3時間＞

【学習活動】

- ・調べたことを、絵カードにまとめる。（郷土資料館等の見学）
- ・昔の人が、よりよい暮らしを得るためにしていた努力や工夫について知る。

環境学習

■昔のくらしから学ぼう

ふろしきを使う体験から、道具と環境について考える

■生活体験をする

かまど体験とごみの処理

■道具の便利さを体験する

便利さとエネルギー使用量を考える

「もったいない」達人への道

■ プログラムの準備

■ 概 要

省エネルギーや資源を大切に使うために、レジ袋の削減や簡易包装がすすめられ、繰り返し使えるマイバッグやふろしきが見直されています。日本の伝統的な文化のひとつでもある、ふろしきの使い方を体験してみましょう。

■ 準 備

1. 備品を用意します。

①ふろしき(子ども数分)

こどもたちに、各家庭からふろしきを持ってこさせます。ふろしきを用意できない場合は70cm×70cm程度の大きさの布を用意します。

②包む物(班に数個ずつ)

四角い形の物、丸い形の物、 瓶型の物

(例)

- ・四角い形・・・教科書(数冊重ねる)、箱など
- ・丸い形・・・サッカーボール、バレーボールなど
- ・瓶型・・・一升瓶、1.5ℓ～2.0ℓペットボトルなど

③チェックシート(子ども数分)

P4を、コピーして使ってください。

④レジ袋(大・小／班に各1枚)

ふろしきとの比較に使います。スーパーマーケットでくれる大型のものと、コンビニエンスストアなどでくれるミニサイズのものがあると最適です。

2. ふろしきの結び方を、練習しておきましょう。

子どもたちに指導できるように、以下の基本的なふろしきの結び方を覚えておきましょう。

(P3参照)

- ・真結びの結び方
- ・四角い形の物の包み方
- ・瓶型の物の包み方
- ・丸い形の物の包み方

3. レジ袋について、知っておきましょう。

- ・年間使用枚数・・・約300億枚
1人が、1日1枚使用した分量に相当します。
- ・焼却時の二酸化炭素排出量・・・
15ℓ入り程度のポリエチレン製レジ袋1枚(10g)で、製造時に30g、焼却時に31gの二酸化炭素を排出すると試算されています。

■ ふろしきの包み方

◆ 真結び

結び方の基本です。結び目が緩まず、ほどく時にはほどきやすいのが特徴です。結び方のポイントは、最初に上にして絡ませた側を、結ぶ時にも必ず上にする事です。こうすると、結び目の両端が水平になりきれいに結べます。結ぶ時に、反対側を上にしてしまうと、結び目の両端が交差した「たて結び」になってしまい、結び目が緩みやすく、ほどく時にはほどきにくくなります。



○ 真結び



× たて結び

1. 四角い形の物を包む

- ① ふろしきの中央の対角線上に、本や箱をおいて、包む物の長い辺側を両端でくみまします。
- ② 残った両端で、真結びをします。



完成！

2. 瓶やペットボトルを包む

- ① ふろしきの中央に瓶やペットボトルをおいて、どちらかの対角する両端を口の上で結びます。
- ② 残った対角する両端を、交差させて巻きつけ結びます。



完成！

3. 丸い形の物を包む

- ① ふろしきの中央に包む物をおいて、となりあう端どうしを結びます。
- ② 残ったとなりあう端どうしも結び、片方の結び目を、もう片方の結び目の下から通します。



完成！

チェックシート

☆ ふろしきの良いところと良くないところ、レジ袋の良いところと良くないところを、それぞれ書きだしてみよう。環境に良いのは・・・？

● ふろしき

VS

● レジ袋

○ 良いところ

○ 良いところ

× 良くないところ

× 良くないところ

プログラムの進め方

■ 進め方の手順

〔準備〕

- ・子どもたちに、ふろしきを用意させる。
- ・チェックシートを配布する。

1. 導入…(例)

- ・社会で学んだ、昔の道具の学習をふりかえり、ふろしきを例に、その使い方を試してみるという、今回の内容を説明する。

2. 実施

- ① 真結びのやり方の指導(P3写真参照)
- ② 四角い形の物の包み方の指導(P3写真参照)
- ③ 瓶やペットボトルの包み方の指導
(P3写真参照)
- ④ 丸い形の物の包み方の指導(P3写真参照)

■ セリフ(参考)

1. 社会で、昔の道具について学んできました。その中には、今でも使われ続けていたり、一度使われなくなったけれど、また、見直されて使われはじめたものもあります。皆さんが持ってきた、ふろしきもそのひとつです。

皆さんは、買い物に行く時にマイバッグを持っていますか？日本では、1年間で約300億枚のレジ袋が使われています。これは、日本中の人々が1日1枚を1年間使ったのと同じ分量になります。ところが、レジ袋1枚について、地球温暖化の原因のひとつになっている二酸化炭素が、作る時に30g、使い終わって燃やす時に31g出てしまいます。

つまり、レジ袋1枚使うごとに、61gの二酸化炭素を出してしまうわけですね。

そこで、環境を守るために、買い物に行く時にはマイバッグを持って行って、レジ袋はできる限り使わないようにしようという取り組みがすすめられています。

レジ袋などがなかった昔はどうだったかと言うと、買い物かごやふろしきを持って、買い物に行っていました。ふろしきは、環境にやさしく、いろいろな物を包めるし使わない時には小さくできるので、見直されはじめています。きょうは、ふろしきを使ってみましょう。



こどもエコクラブ

⑤ レジ袋とふろしきの比較

- ・ふろしきで包んだ物を、レジ袋に入れてみる。
- ※入れる物の大きさによって、袋のサイズを変える必要があることに気づかせる。
- ・チェックシートに記入させる。

(例)

○ふろしき・・・長く使える、環境にやさしい

○レジ袋・・・ 忘れた時に便利

----->

2. それでは、いまふろしきで包んだ物を、レジ袋に入れてみましょう。そして、ふろしきのほうが良いと思う点と、レジ袋のほうが良いと思う点を、いろいろな使い方も想像しながら、チェックシートに書いてみましょう。

・・・それでは、誰かに発表してもらいましょう。・・・

⑥ マイバッグの作り方の指導(下記の手順)----->



対角する両端を、上のほうで結ぶ。



もう片方も、同じように結ぶ。



ふたつの結び目を持てば、マイバッグの完成！いろいろな物が入られる。

2. レジ袋の良い点は、ふろしきのように包まなくても、いろいろな形のものをすぐに入れられるという意見がありましたね。マイバッグもその点は同じで、ふろしきよりも便利なところです。でも、ふろしきでもマイバッグを作れます。やってみましょう。

■まとめ:

いまほどエネルギーや資源のなかった昔の道具やくらは、人の力や工夫が必要でした。それに比べて、いまの道具やくらは、ずっと便利で快適です。でも、そのぶん、たくさんのエネルギーや資源を使います。

環境を守るためには、エネルギーや資源を大切に使うことが必要です。昔の道具やくらしに、そのためのヒントがあるかもしれません。皆さんも、昔の道具やくらしを参考にして、いま、どのようなことができるのか考えてみてください。

関連する情報

資源やエネルギー、ごみなどの環境の観点から、今、昔の道具やくらしの工夫が見直されています。現代の社会や生活に合わせてアレンジされているものなど、子どもたちと一緒にさがしてみましょ。

■ コンポスト

昔の里山の暮らしでは、落ち葉を堆肥化して貴重な資源として活用していました。現在は、ごみの削減を兼ねて、生ごみや落ち葉をコンポストや落ち葉溜で、ガーデニングなどの肥料にして利用する取り組みがされています。公園や学校をはじめ、家庭でも取り組んでいることがありますので調べてみましょう。



■ 打ち水

夏場に都市部の温度が異常に高くなるヒートアイランド現象の対策と、それに伴うエアコンディショナーの電気消費量の増加を抑えるために、打ち水がおこなわれています。熱を蓄えやすいアスファルト道路に水をまくことで、気化熱により熱を逃がして周囲の温度を下げる効果が期待できます。雨水などを蓄えておいて、気温が上昇すると水が散布される道路も作られはじめています。学校でも、試してみるとおもしろいかもしれません。

■ すだれ

目隠しや日よけを目的に、古くから使われていたすだれが、省エネルギーの効果の点で、最近、見直されています。日よけとして窓の外に吊ると、室内温度の上昇を効果的に抑えられて、エアコンの電気消費量を抑えることができます。また、同じ効果から、学校などの公共施設を中心に、つる性の植物を窓辺に植えて日陰を作る、グリーンカーテンをすすめている自治体も多くあります。

■ 詰めかえ

物資が不足していた昔は、容器も大事なものでした。瓶を持って醤油や酒を買いに行ったり、米や豆腐なども、入れ物を持って買いに行ったりしていました。

現在は、資源やごみ減量の点から容器を繰り返し使う「詰め替え」が注目されています。文房具などにもありますので、さがしてみましょ。



プログラムの発展 「もったいない」達人への道

今回はふろしきを題材にした体験をしてみました。ほかにも資源やエネルギーを使わない昔の道具の使いこなしや、環境にやさしいくらしの工夫の体験をしてみましょう。また、あえて題材をさがさなくても、学校生活の中での活動や遊びの、さまざまな達人を決めてもおもしろいかもかもしれません。

● 例１：「洗濯」の達人

〔比較〕洗濯板／洗濯機

洗濯板を使って、洗濯の体験をしてみましょう。労力をかけた昔のくらしにふれるとともに、洗濯機と対比することで、便利で快適な現代のくらしがエネルギーや資源を使うことの上に成り立っていることを学ぶきっかけになります。

● 例２：「遊び」の達人

〔比較〕昔の遊び／ゲーム機

コマ回しや凧上げ、竹馬、紙飛行、あやとりなど、昔の遊びに挑戦してみましょう。自然素材を使った遊び道具を使うことで、資源やエネルギーの使用の違いを考えさせることができます。また、上手に遊ぶためには、電気などのエネルギーを使った現在の遊び道具とは、別の技術が必要なことにも気がつくでしょう。

地域のお年寄りに遊び方を教わると、子どもたちと地域のつながりを深めることもできるでしょう。

● 例３：「火起こし」の達人

かまどや、薪ストーブなどを使って、火起こしの体験をさせてみましょう。いまは、スイッチひとつで簡単にエネルギーを使うことができますが、昔は労力が必要で大切に使っていたことを実感させることができます。

● 例４：「リサイクル」の達人

昔は物を大切に使ったり、使えなくなると別な用途でうまく活用したりしていました。それにならって、牛乳パックやペットボトル、ボロ布など使って、リサイクル工作をしてみましょう。日頃は捨ててしまっているものでも、工夫次第でさまざまな使い道があることに気がつきます。

協力：杉並区立杉並第三小学校
主幹 吉田佳子